

あんなこと、こんなこと

関市イメージキャラクター
「関＊はもみん」



6月16日～30日にあった
市内の話題を中心に
ご紹介します。

自転車安全大会優勝目指して

7月25日に岐阜市で開かれる「県交通少年団自転車安全大会」に向けて、出場する武芸小学校代表児童6年生6人が、本格的な練習に励んでいます。大会は、安全走行・技能走行・学科テストの3競技が行われます。放課後を利用して、関警察署や市交通専任指導員らの指導を受け、実技練習を重ね自己の技術を磨いています。全校児童が出席した激励会で、選手全員は市の代表として、練習の成果が発揮できるよう力を出し切ることを誓いました。



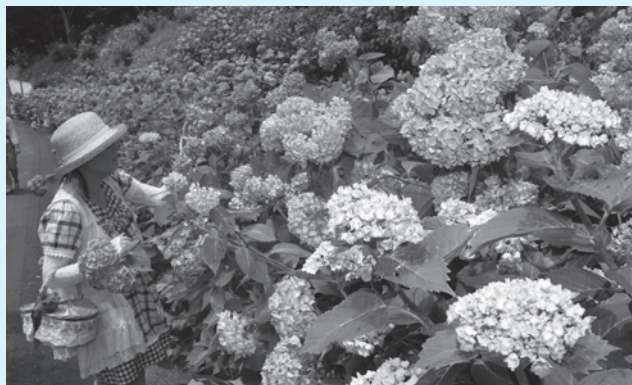
武芸小「田んぼの学校」

武芸小5年生児童が、学校近くの農業用排水路で田んぼの周りの生き物について学ぶ「生き物調査」をしました。河川環境研究所員らの指導で、水深10cmほどの水路に入り、魚を捕まえて名前を確認し、種類ごとに分けて数を数えました。その結果、カワムツ・ヨシノボリ・蛙などが多く見つかりました。児童らは、田んぼは食料生産を担うだけでなく、多くの生き物にとって重要な生息の場となっていることを学びました。



海外で植林指導へ

青年海外協力隊のボランティアとして、ソロモン諸島ニュージョージア島に2年間赴任する高木康平さん（前山町）が出発前のあいさつのため、市長を訪問しました。これまで学んだ林学の知識を生かし、地元住民らによる植林活動の改善や支援、拡大を目指します。高木さんは「現地では環境を守りつつ、産業振興に力を入れ、林業分野で生活できるよう支援していきたい」と意気込みを語りました。活躍を祈ります。



あじさいロード今年も満開

数万株のあじさいが見ごろを迎えた板取21世紀の森公園で「あじさい村フェスティバル2012」があり、ステージショーや多彩なイベントが繰り広げられました。板取ではこの公園に3万本、「あじさいロード」とも呼ばれる国道256号沿いに7万本のあじさいがあり、毎年華やかに咲く6月下旬にフェスティバルを開催しています。県内外から訪れた多くの来場者が、その美しい花姿に見とれていました。



「孫とお年寄り」楽しいひと時

瀬尻小学校児童が、地元の高齢者たちの集い「いきいきサロン」に参加して、昔の遊びでふれあい交流をしました。何でも知っているお年寄りから、かるたやあやとり、お手玉やおはじきなどの遊び方を手とり足とり教えてもらったり、勝敗を競ったりと共に元気よく、夢中で一緒に遊びました。児童らは「気軽に話せて楽しかった。また会いたい」と感想を話しました。



大きい実がとっても甘いよ

田原保育園の園児約70人がふるさと農園美の関（大杉）を訪れて、ブルーベリーの摘み取り体験をしました。園児らは広い農園の中で、青くたわわに実ったブルーベリーの実を摘んでは口にほおばり、舌を真っ青にしなが、そのおいしさを楽しみました。取った実を両手に山のように集めたり、10個を一度にほおぼったり、友だちにあげたりするなどの姿も見られ、園児らは大喜びで季節の食べ物を味わっていました。



民間企業に市職員派遣

関市は、地域に密着した企業への派遣研修を通じて、優れた経営感覚やサービス精神を学び、今後の行政に生かそうと6月から民間企業研修を開始。派遣先となる大型商業施設マーゴ（倉知）の管理運営会社である株式会社サン・ストラッセと関信用金庫（東貸上）の2企業と同研修の協定の締結をしました。40歳未満の職員を対象に約1カ月間勤務します。民間の第一線を肌で感じ、市民サービスの向上を目指します。

こぼれ話

6月、養護訓練センター・武芸川ことばの教室・中之保親子教室合同の大運動会が開かれ、応援におじゃましました。始めに「ミナモ」と交通安全キャラクターの「こあんちゃん」が登場すると、子どもたちは名前を呼んで歓迎し、一緒にダンスを踊って喜んでいました。競技では、トンネルをくぐりキャラクターを倒してゴールを目指したり、スカイツリーの絵に飾りを付けていたり、親子で楽しめる種目ばかりで、会場は参加者の笑顔と歓声であふれていました。

こうした元気いっぱいの子どもの姿を見ていると、子は宝、次代を担う無限の可能性を持つ大切な存在だとつくづく実感します。子どもたちの健やかな心身の成長を願って、私たちは家族のみならず地域社会全体で見守り、育てていかなければならないと思います。市では、子育て支援ネットワークを中心にさまざまな事業を通して、地域とのつながりの中で子育てしやすい環境づくりを進めているほか、働きながらの子育てサポート「ファミサポ制度」の利用料軽減や留守家庭児童教室指導員の増員など拡充を図ります。すべての子どもの幸せのために、施策に取り組みます。

